

(別紙様式第5号)

6次産業化推進整備事業(農業主導タイプ)点検評価書(平成29年度分)

地方農政局等名
東北農政局

6次産業化法人の名称	設立年月日	代表者名	構成員数
農事組合法人 新田営農組合	平成19年4月17日	手塚 隆	10人
主たる事務所の住所	山形県米沢市大字上新田1142-1	TEL FAX	セキュリティに配慮し、非公開とします。

1 事業の実施状況

[取組状況について]

直売所について、特色を出すために農産物の展示を工夫して集客に努めている。一方、農家の高齢化、離農があり、品揃えに苦労しているが、直売所での販売を通じて、新たな販売、商品化に繋げている農家も出ている。インショップ等との連携は、他の農家への販売拡大につながっている。加工については、枝豆のむき豆の契約販売が拡大して行く見込みとなっている。製粉商品については、少しずつではあるが、洋菓子店と取引を始めている。

[経営状況、事業による変化等について]

直売所での米販売は伸びたものの野菜販売は伸び悩んでいる。高齢化等もあり品揃えが減少していることや野菜の出品量による出品控えが起こったりと、品揃えが思うようにできていない。直売所の運営を女性にお願いし、主婦感覚で買い物ができるお店作りを目指している。インショップ等では、野菜等の売れ行きはよいが販売額は大きくなく、配達の人件費等を考えると経営には貢献していない。加工品は、枝豆のむき豆等の販売は伸びているが、製粉商品の販売は伸び悩んでいる。

2 成果目標の達成状況に対する所見

項目	所見
(所得の向上に関する目標) 売上高の増加	直売所の売上は、前年度と比較して伸びた。インショップ等では、予想以上に売れた商品もあったが、乾燥商品の売れ行きは今ひとつとなっている。 農業政策のとの兼ね合いもあり、飼料作物であるデントコーンの作付けが拡大したが、大豆や野菜等の生産面積、生産量は減少した。 全体として、前年度の売上高より拡大したが、成果目標は達成していない。
(雇用の創出に関する目標) 雇用者の増加	目標は達成している。
(地域の活性化に関する目標) [耕作放棄地の解消面積の増加]	目標は達成している。

3 施設等の利用状況についての所見

[農畜産物加工・販売施設、乾燥機、製粉機の利用状況について]

加工施設については、柿が不作であったため、干し柿の利用は減少したが、枝豆のむき豆、漬け物、もち加工が拡大したため利用実績は前年度と同じになった。販売施設については、米の販売が拡大したため前年度より拡大した。乾燥機については、受託による利用が拡大したため利用計画を超える利用実績となった。製粉機については、米粉の販売要望が拡大したため利用実績が拡大した。

4 6次産業化法人と連携法人の取引状況について

該当なし

5 改善措置等に対する所見及び指導内容

(1) 成果目標について

売上高は目標に達していないが、加工品の開発、加工品の充実を行うこと、花木栽培や販売を計画していること、乾燥品については、パッキング等の工夫により売上拡大を目指すこと、製粉商品については、業務用の利用について営業等を行うこと等を計画している。これらの目標達成に向けた取り組みを行うことから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。

(2) 施設等の利用状況について

売上高の増加を図ることにより各施設及び機械利用の状況を改善する方針であることから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。